

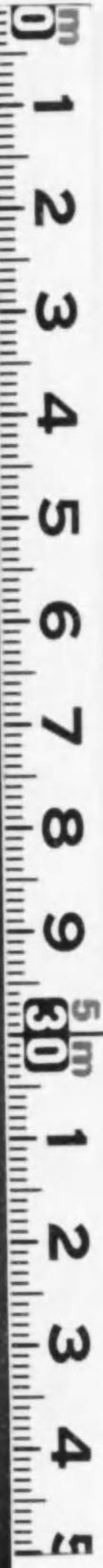
338

特 260

263

隅田川

昭和改訂版
内五



始



隅田川

(梗概) 都北白川に住める吉田何某の妻、其の子梅若丸の行方知れずなりを歎き、心狂はしくなりしが、遠く東の方に下れりとの風の便りを頼みに遙々の旅に出で、やうく武藏下總兩國の境なる隅田川の邊りに辿りつき、折りよき渡り舟に乗りしが、彼方の岸に當りて大念佛の聲の聞ゆるを同船せし一人の旅人の不審しけるより船頭は去年三月十五日人商人に伴はれし稚き都の人の路次より病にかかりしが此處にて捨てられ遂に空しくなれる由を具さに語る。狂女も此物語に耳を留め、其の名、其の歳など問ひたごして、其の空しくなりし稚き者こそ、我が子の梅若丸なりしに悲やる方なく船頭と共に大念佛に加はり一心不乱念佛を称へるに、塚の中より稚き聲にて念佛に合唱す、あれは我子かと母は子を求め子は又た母を求めて哀憐限りなく、いつか夜はしらくくと明けかこりて子の聲も姿もなく塚のほとりは只草莽々として、母の恨みのみ永へに残るといふ一曲なり



シテ 梅若丸の母
 子方 梅若丸
 ワキ 渡シ守
 ワキツレ 旅人
 所 武藏國隅田川
 季 春

隅田川

^{わき}是も東國角田川の渡しをみては梅と
 け渡りハ武蔵下総兩國の境に流る川
 してはがけ間此處より水急よんては大事
 此渡り少ては程よ^上旅人の一人二人^舟ふらふ
 渡し中なるかぬくは人を待たず渡さるやと

理

存わき連の男末上も歩吾妻乃旅夜く日も

吾いとれんら都中 是詞は東國方の商人ふ

こひ吾は聞ハ都ふひひここあこ高ひ車

終り唯今本國は終下ハ 上ホヤ雲霞霞

詠幸山は越が一て歩くいく園を乃

乃まが國でるいく行程は安そ名はお

ふ角田川渡りは早く急はなりく

急は程よ角田川の渡りは急ては急ぎ

船は急ぎふぎはさくくいくに船頭及舟ふ

急ぎふぎはさくく 中に此車 船は石れ

は又下り人の多くまりは何事ふ

こひ急ぎ 男あ事は時自の泊は有一女

馬

下

物ねむくひ ^{あま}はあはるきちを待、母子

のせうはるむくひ ^男誓は待久 心の中

^{サレ上}利人乃親の心を圖よあはねを子と思ふ

乃よ津よとふ今し我思ひ白おむ道

ゆきあまにまつて、向後何國と云む

らんあはるめあ乃親やあ ^上あはる

ふうにれをなる風いふも ^日ね子もする

あむあま ^{カケリ}はくまが東北の世に

身を娘とや ^{サレ上}あはる ^上是は都小白

河よ年経てまめは女あるが思ひさる命

に独り子を人高人子誘ひ事て、は誘を

きけは逢坂の園乃東北國遠き東と

多小下里拵くと少の里ん乱まは
持さしとけり思ひ子れ 詠をたづねて
遊ふあつ目下 少 子里を由くも親心子を
さるにぬちと物哉上 少 本よまも紫のつ
なるひとつせ乃キ 少 けらちちちちちち
ひもせでヤラ 少 ちかカ 少 ちのカ 少 ちの

別まき是かれや尋ぬるん乃果やん武
義乃國と下ヤラ 少 総の中ヤア 少 子あり角田川も
恙にたりして 少 ちのふわア 少 ちのちも其
亦も家て孫りゆへ 女あま 少 ね女あま 少 ちのさめま
何國も里何方へ下侍人ぞ 是して 少 ちのた乃
都より人あま 少 ちを尋て東へ下りゆ ちとひ

都乃人ありを、面白く観へくるを、すばは
船よのせ海へひよては、うたてや、船角
田川乃渡、おほくま、一海が、田川
海、船よのきと、我をおせあ、さの、あ
の、ま、と、く、も、都、の、ま、を、船、よ、ま、を、と、承、る
、角、田、川、乃、渡、守、共、お、ほ、へ、ぬ、事、を、の、た

まひぞ、^{わか}艀女なれを、都の人として、名よし
おひよ、海、な、さ、し、は、よ、^て名、ふ、お、ひ、よ
海、都、れ、者、と、承、る、は、さ、く、も、又、よ、さ、い、ら
る、物、を、彼、業、平、と、い、は、渡、里、ま、く、^{上、り、か}名、ふ、
お、ま、い、^らし、お、ま、い、^らん、船、島、我、を、ふ、人、^{口、切}
あ、ま、や、ち、^らや、と、ま、ふ、船、人、^{あ、い}何、事、哉

ん都鳥ヤラハくわが思キひ子の東海ヤラハはあ
まなヤラハーおせヤラハいさヤラハくヤラハ言ヤラハぬヤラハうヤラハ
て都鳥ヤラハひさ乃鳥ヤラハをわヤラハらヤラハひヤラハてヤラハまヤラハ実ヤラハを
ぬかぢヤラハふヤラハ堀江ヤラハの川ヤラハ此ヤラハ女ヤラハをヤラハきヤラハふヤラハ来ヤラハ居ヤラハ
つなヤラハくヤラハ都鳥ヤラハ智ヤラハ夫ヤラハをヤラハ難波ヤラハにヤラハ出ヤラハまヤラハきヤラハふヤラハ又ヤラハ角ヤラハ
田ヤラハ川の東ヤラハまでヤラハ思ヤラハふヤラハ限ヤラハりヤラハあヤラハくヤラハきヤラハふヤラハもヤラハきヤラハ

ぬも物ヤラハをヤラハ去ヤラハとヤラハてヤラハいヤラハ渡ヤラハさヤラハもヤラハあヤラハぞヤラハつヤラハてヤラハせ
まヤラハくヤラハたヤラハ業ヤラハせヤラハはヤラハあヤラハぬヤラハいヤラハ渡ヤラハ守ヤラハさヤラハらヤラハうヤラハとヤラハてヤラハいヤラハ業ヤラハ
あヤラハくヤラハたヤラハびヤラハ孫ヤラハへヤラハかヤラハはヤラハなヤラハさヤラハーヤラハきヤラハたヤラハ娘ヤラハ女ヤラハよヤラハ
うヤラハひヤラハらヤラハぬヤラハもヤラハ思ヤラハひヤラハてヤラハみヤラハよヤラハのヤラハ里ヤラハゆヤラハへヤラハ大ヤラハ事ヤラハ此ヤラハ海ヤラハり
まヤラハくヤラハ有ヤラハるヤラハかヤラハまヤラハひヤラハてヤラハ船ヤラハ中ヤラハまヤラハをヤラハ物ヤラハよヤラハ担ヤラハひヤラハひヤラハかヤラハ
宮ヤラハ家のヤラハ人ヤラハ毎ヤラハよヤラハらヤラハれヤラハとヤラハくヤラハ心ヤラハをヤラハかヤラハへヤラハらヤラハふヤラハ

ひけるぞ今を限つや目入くはおはるに
人を推し高人を奥へ下してはさるを
くと思ひて人を弱くお道里
院に束ねるはむねの御子御りよ痛く
存古心を為しては今何をもとせよ
我も都北白川よ吉田北何某と申一人

乃思子にこそ家名は梅系丸生年十
二歳は女に父をくき母一人よそひ系
らせぬを人高人はとつきて下りて我を
く成てははははは乃古中よは染よめ
て強りゆくををいふと申よ謀を都の
人乃思はあはれはなむらうは程よの

かうに申す只をましくも母うへて何
よまめつて意一くはさく弱つゝる息
乃下みく念仏回お遍唱へつゝ為よ終ては
去程よ迷言よ但せ墓所を播へ中下
柳を柱ては今胡今日正命日にお尚
里くは程ふ所の人お集ありん大家仏を

中下事いけ船中みもせうく船此人
もは海いよさめきと衣大と正化を中一有
て^上事いあきり一^上を長物語に船の
^男唯今の由物
語よ海後仕りくは来い急きよくは入た
家くも念仏此人教よ来い一^{あま}け方

ふまゝ時^{ツク}を中^{ナカ}にさうするに^ニく^ク男^{オトコ}の
中^{ナカ}に^ニい^イは^ハね^ネ女^メ船^{フネ}が^ガさ^サて^テい^イま^マう^ウく^ク揚^{ホウ}
里^{サト}へ^ヘあ^アふ^フく^ク今^{イマ}の^ノ物^{モノ}語^ゴは^ハい^イの^ノ事^{コト}
は^ハて^テい^イぞ^ゾ 去年^{オトシ}三^ミ月^{ツキ}十^{ジュウ}日^{ニチ}志^シら^ラも^モら^ラふ
ま^マの^ノさ^サり^リこ^コい^イあ^アい^イづ^ヅく^ク此^{コノ}者^{モノ}と^ト中^{ナカ}に^ニい^イひ^ヒ
お^オの^ノ名^ナ字^ジハ^ハ 吉^{キチ}田^タ此^{コノ}

何^{ナニ}某^{ナニ} 思^{オモ}ひ^ヒの^ノ事^{コト}は^ハ 十^{ジュウ}二^ニ歳^{サイ} 其^{ソノ}名^ナは^ハ
梅^{ウメ}丸^{マル} 相^{アイ}と^ト後^{ノチ}に^ニ親^{オヤ}と^トい^イふ^フ事^{コト}は^ハ
親^{オヤ}と^トい^イふ^フ事^{コト}は^ハ 母^{ハハ}と^トい^イふ^フ事^{コト}は^ハ
と^トい^イふ^フ事^{コト}は^ハ 母^{ハハ}と^トい^イふ^フ事^{コト}は^ハ
事^{コト}は^ハ 母^{ハハ}と^トい^イふ^フ事^{コト}は^ハ
事^{コト}は^ハ 母^{ハハ}と^トい^イふ^フ事^{コト}は^ハ
事^{コト}は^ハ 母^{ハハ}と^トい^イふ^フ事^{コト}は^ハ

尋ね侍子にこそゆへにこそ置る名阿く出しや
 下^{わかき}云^ト語^ク乃^ハ所^ト相^マい^ハそ^ノ人^ノの^ハ母^ノあ^リて^ハ入^リゆ^リ今^ハ
 ハ^カ歎^キき^スも^ト甲^ハ此^ノ文^ヲ尚^マま^ド彼^ノ人^ハ乃^ハ墓^ノ所^ト
 を^ハ見^セせ^シゆ^ヘ一^ハ世^ノ方^ハへ^ハ渡^リゆ^ヘあ^リあ^リ
 是^レ丁^ト替^ハ彼^ノ人^ハ此^ノ墓^ノ所^ト新^シめて^ハゆ^ヘ能^ハこ^トは^ナ申^ス
 ゆ^ヘ今^ハと^ハい^ハふ^ト去^リとも^ハあ^リあ^リん^をを^ハ頼^ミぬ^ハ

丁^ト替^ハと^ハ尋^ヒ下^リり^タる^ハに^ハ今^ハは^ハ世^ノ子^トな^リ
 去^リ乃^ハ申^スば^ハく^レを^ハ見^ルとも^ハあ^リあ^リぬ^ハ相^もむ^ハ
 ぎ^んや^ハ死^乃縁^とて^ハ生^所を^ハ去^リて^ハ吾^妻
 乃^ハ果^レ此^ノ乃^ハの^ハ不^トり^ハ此^ノ去^リとも^ハあ^リあ^リて^ハ去^リ乃^ハ
 草^ノの^ハ生^茂り^タる^ハに^ハ下^リに^ハ丁^ト替^ハあ^リる^ハも^トあ^リ
 去^リと^ハい^ハふ^ト一^ハ月^ノに^ハ去^リとも^ハあ^リあ^リぬ^ハ一^ハ夜^ハに^ハ
 ヤ^ア去^リと^ハい^ハふ^ト一^ハ月^ノに^ハ去^リとも^ハあ^リあ^リぬ^ハ一^ハ夜^ハに^ハ

男

ト

世に嬰女を母にんせよあり孩こやあまやあまありて
も甲斐又もくまにやあまくあまてあまくあまあるも
のひまきき常神木のあまのあま人あま間あま然あまひ乃をあま盛
定めちた世乃あまあまひあま人あま間あま然あまひ乃をあま盛
無常のあま風あまさるそあま生あま死あま長あま短あま此月のあま影
不定のおまおるあままあま実目のあま影乃あま浮世あま哉

院月お川風もあまああまるあまるあま哉
念佛の時あまらあまああまれあまたあまとあま画あまいたあまたあまをあまうあまさあまを
ああままあままあまむあままあまばあま母あまをあま涙あまよあまうあまたあまくれあまと
念佛あまをあまやあまんあまちあまーあまとあませあまであまひあまひあまれあまふあまてあま泣
居あまりあまうあまたあまてあまやあまんあまごあま多あまくあまたあま母のあま甲
子あまんあまちあまんあまそあま古あま者あまもあま嬉あまびあまゆあまふあま處あまああまれあまと

志^シあ^ハら^ウし^テあ^マを^ニ母^ノよ^クあ^ハら^ハま^スる^ニ して中 我^ガ子^ノ乃^ハ
 為^ルと^キけ^レバ^ハ実^ニは^ハ牙^ノと^シぬ^セう^ヲを^ニ首^ノに^テ掛^ケ
 勢^キを^トめ^ルあ^リま^スむ^ヤ わき 月^ノ乃^ハ觀^ル念^フ
 仏^ノ志^スを^シ小^シ わき 心^ヲを^ト一^ノ筋^ノに^テ 二人下 南^無を^ヤ
 西^ノ方^ニ極^ニ樂^ニ世^ニ界^ニニ^テ十^六万^億同^ノ号^ノ同^ノ名^ノ
 阿^彌陀^佛 して 南^無を^ヤ阿^彌陀^佛 はた^ハ佛^ヲを^ムあ^ハ

又^ハ佛^ヲ南^無を^ヤ阿^彌陀^佛 は南^無を^ヤ阿^彌陀^佛
 南^無を^ヤ阿^彌陀^佛 は南^無を^ヤ阿^彌陀^佛 は南^無を^ヤ阿^彌陀^佛
 乃^ハ波^ノ風^ノも^トあ^リま^スる^ニ 同上 南^無を^ヤ阿^彌陀^佛 は南^無を^ヤ阿^彌陀^佛
 南^無を^ヤ阿^彌陀^佛 は南^無を^ヤ阿^彌陀^佛 は南^無を^ヤ阿^彌陀^佛
 お^のれ^ル鳥^ノも^トあ^リま^スる^ニ 同上 我^ガ子^ノ乃^ハ 子方 南^無を^ヤ阿^彌陀^佛 は南^無を^ヤ阿^彌陀^佛
 佛^ヲも^トあ^リま^スる^ニ 同上 南^無を^ヤ阿^彌陀^佛 は南^無を^ヤ阿^彌陀^佛

男

ト

今のおきぬあういづづく此種ありゆぞ

^{あき}ふーくは塚のさるあまのうたてはさるは

丁我ふーま我子れあなるそや今つ丁あ

あうきりはるーられ南をあに院仏

^{上方}あむあみど仏なむ阿ふい仏 ^{月上}あう此肉

よるまろろーに見へるまばあまら我子

母とて海ーまふらあまら子あをいあ
くまむらあしきくーと失られいあ
思ひはまのいかに面をまほろー
見へつらくまのまは程ふ東雲の空も
るのくーとめめめめめめめめめめ
へーハ塚乃上あ草草をうーとーて只

陸

十三

平はく重乃淺茅の原とある了そ滾
ありとれく

昭和十一年九月廿五日印刷
昭和十一年九月三十日發行

定價金五拾錢

著作權所有

著作者 寶生新
東京市下谷區上野櫻木町四十八番地

發行兼印刷者 江島伊兵衛

發行所 下掛寶生流謠本刊行會

338
846

終

